

**【栄区】令和 2 年第 2 回区づくり推進横浜市議員会議
議事録**

開催日時	令和 2 年 6 月 9 日（火） 午後 3 時 30 分～ 4 時 30 分
場 所	栄区役所新館 4 階 8・9 号会議室
出席者	<p>【座長】大桑正貴議員</p> <p>【議員：2 名】興石且子議員、長谷川えつこ議員</p> <p>【栄区：30 名】富士田学区長、小泉信義副区長、 青木匡史福祉保健センター長、 井上弘毅福祉保健センター担当部長、 鈴木誠土木事務所長 ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和 2 年度個性ある区づくり推進費予算について</p> <p>2 会議報告書作成について</p>
発言の 要 旨	<p style="text-align: center;">（説明省略）</p> <p>興石議員：本日は対面での会議を開催いただいたことに感謝申し上げます。 生活保護に関しては、栄区特有の課題や事業ではないと思う が、「不正受給にならないためのハンドブック」は栄区独自で作 成しているのか。</p> <p>村山生活支援課長：「不正受給にならないためのハンドブック」は、健康 福祉局で日本語版の作成はしているが、外国語版の作成予定はな いと聞いている。要望としては、以前、各区から上げているが実 現に至っていない。栄区では、日本語が得意ではない外国人の方 の収入の申告が遅れてしまったという事例もあったため、独自で 事業化した。</p> <p>興石議員：現在把握している対象者はどれくらいか。</p> <p>村山生活支援課長：昨年 12 月末時点で 23 世帯 40 名となっている。主な 内訳は、韓国朝鮮籍の方が最多で 12 名、次に多いのが中国・台 湾で 11 名、次いでフィリピンの方が 7 名となっている。</p> <p>興石議員：本来、区が独自にやる事業ではないと考えるので、もう少し市 全体として取り組むよう働きかけてほしい。</p> <p>村山生活支援課長：健康福祉局に働きかけていく。</p> <p>興石議員：私も声を上げていく。</p> <p>興石議員：明るい選挙啓発事業に関して、こちらも市全体に関係する事業</p>

だと考える。一方で、栄区の地域性を踏まえ、独自の取組を行うことも可能と考えるが、どうか。

伊藤総務課長：投票年齢が 18 歳に引き下げられたことを受けて、学生や生徒への啓発活動を行っている。

興石議員：5 年程前、選挙を行う目的を理解してもらうために必要なのは、議員にはどのような資質や能力が求められ、選出された議員の仕事はどのようなものかを知ることだと考え、中学生を対象に区役所を視察してもらうという事業があった。その際、中学生から区長に対して事業提案も行った。このような栄区独自の事業を継続してもらいたいと考えている。

伊藤総務課長：ご意見として受け止めさせていただく。

長谷川議員：本日は会議を開催いただき感謝する。感染症拡大防止に向け、最前線で尽力いただいていることにも心より感謝する。

商店街にぎわい創生事業について、商店街紹介のホームページとあるが、どのようなものをいつ頃作成するのか。

根本地域振興課長：年度内を目途に、紙ベースの商店街マップの内容をホームページにアップし、各店舗の最新メニュー等が順次更新できるよう準備を進めている。

長谷川議員：コロナウイルスの感染症拡大防止のために、各店舗が様々な工夫をしている。興石議員もテイクアウトを行っている店舗の紹介をされているが、独自に営業体系を変えて努力されている店舗の支援を早急に行い、地域の活性化につなげてもらいたい。

続いて、栄の“歴史・文化”事業について、劣化した歴史案内のパネルは、何か所をどのように修繕したのか。また、区民音頭の動画の作成はいつ、どのように行われ、どう発信されるのか。

根本地域振興課長：老朽化している案内パネルについては、昨年度いたち川沿いで 2 か所、柱のぐらつきや、板面が見えなくなっていたものを直した。今後も同様に修繕が必要なものがあれば対応できるように予算立てしている。今現在、修繕が必要なものは無いが、今後、必要性が確認できれば直していく。

区民音頭の動画の作成・発信については、現在、区のホームページで「さかえっ子体操」などが見られるページがあり、区民音頭についても、踊りをつくって区のホームページにアップすることを考えている。

長谷川議員：歴史案内のパネルについては、どこにどのようなものがあるのか、一覧で提供してほしい。

続いて、本郷台駅周辺のまちづくり推進の300万円はどのように執行していくのか。

永松区政推進課長：基本的には委託費で300万を想定している。内容としては、三井不動産レジデンシャル(株)が建築中のマンションと同敷地内で入居済みとなっているマンションの間にできる公開空地と、本郷台駅前広場の2つの空間を使ったにぎわいづくりを以前から検討しており、今年度は、その2つの空間を結び付けたにぎわいづくりの体制構築を、区民の意見も聞きながら委託により進めていく。

また、公共施設等の建替えも見据えながら、将来的な公共施設の再編計画を具体的に委託で検討をしていきたいとも考えている。

長谷川議員：委託先について、追って説明をお願いしたい。

最後に、再チャレンジ応援事業について、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で経済状況が疲弊している中、生活保護受給者や生活困窮者の社会的自立のための就労支援が大変重要だと考えている。今年度、就労支援の実施件数はどのくらいあるのか。

村山生活支援課長：現在の就労支援件数は持ち合わせていないが、生活困窮者自立支援制度の取組として、ジョブスポットにつなげたりしている。相談件数は、3月が28件、4月が107件、5月が134件ということで、生活困窮の相談が非常に増えている。最も多いのは住居確保給付金の相談となっており、それが増加の一番の要因となっている。

長谷川議員：今後、失業者が増えると考えられるため、この事業をぜひ活用してもらい、一人でも多くの方の就労支援につなげるよう尽力いただきたい。

大桑座長：本郷台駅周辺のまちづくりについては、駅前のマンションが1棟完成し、来年度にさらにもう1棟できる中で、まさにこれから、公共施設等の建替えも見据えながら、将来的な公共施設の再編計画も含め、考えていくのだと理解している。限られた財源の中で、ぜひ議論しながら進めていきたい。委託については、これから進めるという理解で合っているか。

永松区政推進課長：委託内容を検討している段階であり、契約はこれからとなる。

大桑座長：郊外住宅地の持続可能なまちづくりの推進について、こちらも今後、委託により進めていく事業だと認識しているが、市全体や区全体を見ながら広い視野で検討していただきたい。庄戸地域のまちづくりではあるが、できれば区全体にもインパクトを与えられるよう、うまく全体を見ながらバランスよく検討してもらいたい。

永松区政推進課長：今回の予算に関しては、旧庄戸中の後利用に向けた検討費用であり、区全体のまちづくりに向けた委託をするということではないが、ご意見を承り、区全体への影響を含めた検討をしていきたいと考えている。

大桑座長：栄IC・JCTについて、工期が伸びたことで予算減額となっているが、動きがあれば、逐次教えていただくよう要望する。

続いて、スクールゾーン対策協議会について、新型コロナウイルス感染症の影響下で、開催の可否も含め柔軟に対応していただきたいと考えているが、どうか。

根本地域振興課長：現在、スクールゾーン対策協議会について、区内全14校の小学校で開催できる状況ではない。今後の協議会の開催可否や、要望への回答方法については、PTAの方々に相談させていただき、スクールゾーン対策協議会の在り方を含め、これから検討していく。

大桑座長：子育て・子ども応援事業全体に関わることだが、両親教室や妊婦・養育者メンタルヘルス相談、育児応援教室など、本来であれば実施しているはずの事業について、実施状況を教えてほしい。

佐藤こども家庭支援課長：事業それぞれによって段階的に実施するため、中止の時期や今後の再開見込みは異なっている。例えば両親教室は、6月は中止だが、9月以降の実施については検討中となっている。授乳相談については、5月までは中止で、6月からの再開を見込んでいる。妊婦・養育者メンタルヘルス相談及び育児応援教室については、4、5月と中止したが、6月からの再開を見込んでいる。事業によっては、7月から再開するものもあると考えている。

興石議員：少し先走った質問だが、今後、実際に事業が実施できず、横浜

市全体としても執行残が発生し、減額補正を行う可能性があると考えているが、区としてはどのような認識でいるのか。

富士田区長：区としては少なくとも市の方針に従いながら、「区づくり推進費」の事業費趣旨を踏まえ、できる限り区民の皆様方のために、事業執行していきたいと考えている。そのためにも、まずは事業の必要性の見極めをしていきたいと考えている。

興石議員：全く予測が立たない状況下だからこそ、前例にとらわれず、必要な事業を、しっかり実施していただけるとありがたい。また、陽性者5人という極めて少ない現状を、セーフコミュニティの取組の中で分析し、サーベイランス分科会や先生方の研究としてぜひ取り扱っていただきたい。

大桑座長：先ほどの、子育て・子ども応援事業全般に関わることだが、保護者としては、ようやく学校や幼稚園が始まった安心感がある一方、長期の休み明けの子供たちが精神的に不安定になるケースもよく聞かれるので、ぜひこまめにアンテナを張りながらケアをしていってほしい。

以上で私としては終わりますが、まだもう少しお時間は10分20分ありますので、もしよろしければ質問をお願いしたいと思います。

興石議員：栄区の場合、商店街という形態が小さくなっている。市の事業でも商店街またはそれに準ずる団体ということで新たな定義づけをしてくれている。具体的にどのような形態が商店街に準ずるかはっきりは決まっていないと思うが、区内に点在している店舗や個店で頑張っているところを取りこぼしなく支援してもらえるとありがたい。どのように考えているか。

根本地域振興課長：商店街と商店会、それから個別の団体というような区分けということになる。現在、栄区では、駅前とアーケードで、9月に夏祭りを行っており、自主的に活気のある商店街もある。また、新大船商店街のように県や横浜市が連携しながら朝市をやっているところもある。さらに、長沼や飯島など、それぞれ小さい個店が集まったところもあり、そのようなところへも心を配り、商店街や地域の町内会の方の力を借りながら動物を呼んでのイベント実施を行っている。また、飯島のせせらぎ緑道があるようなところでも、商店街振興として地域の方と一緒にできること

はないか常日頃、検討を行っている。ぜひお知恵をいただきたい。

興石議員：新型コロナウイルス感染症の影響下で、タクシー事業者が大きな打撃を受けていると聞いている。栄区でも2事業者が所在しており、商店街とのタイアップをぜひ進めてもらいたい。千葉や江の島などでは、自治体主導でタクデリを事業化している。私自身も支援に向けて動いているが、やはり行政側のリーダーシップがないと、事業化させるのが難しい。区政推進課や地域振興課と連携しながら、「交通と商店」という新たな視点で事業をやっていただきたいと考えているが、どうか。

永松区政推進課長：以前、興石議員から話は伺っており、法令が改正され、柔軟な取組が可能になっている面もあると承知している。区役所として何ができるか考えていきたい。ご提案に感謝する。

興石議員：交通改善による温暖化対策実証実験が有為的できないという話もあったので、できるところから進めていただきたい。

規制緩和に関連して、6月末まで物販が可能となっているが、その緩和策が継続されるよう自治体から声を上げてもらいたい。

地域防災拠点支援事業について、広域避難場所の看板メンテナンスとあるが、昨年度末に地域防災拠点そのものに看板を1個ずつ出していただき、大変評判が良いと聞いている。ぜひ、1拠点1個ではなく、様々な方面から見られるよう、毎年少しずつ整備してもらいたい。また、区民から、エリア内の避難所の案内表示を各町内会の掲示板に設置することはできないのかと聞かれるが、どうなのか。

富士田区長：分かりにくい看板では意味がないので、工夫をしていきたい。

また、町内会の掲示板への案内表示については、通常の掲示物との整理やその効果も考えながら検討していきたい。

興石議員：栄区避難所マップ（風水害編）の未配布世帯はどれくらいあるのか。

伊藤総務課長：昨年度末までに浸水エリア内2万弱の世帯にお配りをしており、それ以外の約4万世帯に対し、6月中に配り終える予定で準備を進めている。

長谷川議員：栄区では、新型コロナウイルス感染症の陽性者が少なく、他区からも参照をいただいているが、一部の区民からはやはり心配なので、PCR検査を独自で受けたいという声も上がっている。

車もなく、タクシーを呼んでいいのかわからない状況の中で、PCR検査や簡易的な抗体検査をどこでどのように受けられるのか知りたい区民に対して、区としてはどのような対応を考えているのか伺いたい。

大桑座長：おそらく、議員団会議での議題に係る質問かと思うが、回答をお願いします。

角田福祉保健課長：福祉保健課健康づくり係でも、心配された方からの電話相談を多く頂いている。最初の頃は、PCR検査自体、受けることが難しい状況であったが、最近は、かかりつけ医からの紹介で検査につながることも増えているので、まずはかかりつけ医に相談することを勧めている。また、自家用車がある方や運転できる方を対象にドライブスルー方式の検査も始まっており、先週、健康福祉局でも記者発表があったとおり、市内のタクシー事業者の協力をいただき、専用の車も準備できたところとなっている。いずれにしても、かかりつけ医による判断から検査につながるものであり、まずはかかりつけ医に相談いただくのが良いと考えている。

大桑座長：「さかえの野菜めしあがれ（シニア版）」の作成について、10月ということだが、予定どおり進んでいるのか。また、パート2となっている通常版の更新や改訂の予定はあるのか。

角田福祉保健課長：まず、「さかえの野菜めしあがれ（シニア版）」について、現在検討を進めており、予定どおり10月作成を目指している。内容としては、高齢者の介護予防の問題などもあり、野菜だけでなく高たんぱく、高ビタミンDの食事の重要性も含め、今までの2倍の大きさのA4判とし、見やすいサイズで作成する予定となっている。また、「さかえの野菜めしあがれ」パート2は好評につき、引き続き、活用していく。

大桑座長：読書活動推進事業について、約60万円の予算は問題なく執行できそうか。

松田読書活動推進担当課長：今年度は、ビブリオバトルや読書活動推進講演会、啓発物品の作成配布などを考えているが、学校の生徒をバトラーにするビブリオバトルについては、開催の可否について、学校側と調整をしている。学校側は、学習の遅れの取戻しを最優先課題としており、今年度の開催は厳しい状況となっている。

	会議報告書の作成については座長一任。了承
備 考	